

文教大教育 西出伸子 ○金井圭子

目的 仕上げ効果はアイロンの温度、接触時間、圧力、布の含水量、あて布の有無等で左右される。繊維製品の取扱いに關する表示(JIS L 0217)では、アイロン温度200、150、110℃、速度30cm/秒で1往復させ、変退色、汚染、外觀(溶融、悪光り) 風合、アイロン効果を判定評価する。衣服は部位によって布の重なり枚数が異なる。仕上げ効果の大きな要因である布の温度が重ね枚数で、どのような状態を示すか測定したので報告する。

方法 アイロン(ナショナル自動アイロンNI-56AF 100V-500W かけ面フツソ加工 重量1150g 底面積197cm<sup>2</sup>)の温度測定は宝工業熱電式サーミスターEH100-01に棒状あるいは板状エレメントを用いた。布(JIS L 0803綿添付白布)の温度は静置あるいは大ききさ10×40cmの中央部にエレメントを置き、長軸方向に速度30cm/秒でアイロンを往復させた。

結果 1. アイロンかけ面温度は自立状態(規定の方法)で最高表示(210℃)で175~143℃、綿目盛(165℃)で154~127℃、使用状態では最高表示で208~188℃、綿目盛で190~167℃であった。

2. アイロン表示210℃の場合の綿布の温度(℃)

測定方法	静置			30cm/秒(40cm)	
	30秒	1分	5分	30秒	2分
重ね枚数				1往復	4往復
1	155~180	165~193	185~197	100	140
3	145~175	158~185	183~194	85	135
5	125~140	145~170	176~191	70	130
7	100~130	120~157	171~186	67	120